

平成19年度「専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン」成果報告書

事業名	中高校生および若年者に対する自然環境・園芸に関わる職業体験講座		
法人名	学校法人 伊東学園		
学校名	大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校		
代表者	理事長 伊東 政信	担当者 連絡先	山田 正彦 TEL 0721-24-5147

1. 事業の概要

各教育機関に赴き、中高校生などに対し花や緑に関する職業の理解し易い体験型実習で、園芸の職業に対する説明・作業等を行い、自然環境・園芸に関わる職業教育を実施することにより、園芸関連職業の魅力を伝える。また、参加者にアンケート調査を実施し、分析することにより、園芸に関わる職業意識等興味喚起を促す。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

自然環境・園芸に関わる職業教育を実施し、児童など低年齢層の園芸に対する興味の喚起ならびに農園芸関係高等学校での動態を加え、普通科高等学校については、園芸に対する興味をほとんど認知することなかった事が、作業・説明終了後には、花や緑に関わる仕事への興味が全体の8割以上が興味を持ったとの回答からおおいに目的が達せられ、調査の補完が滞りなく行われた。

②事業により得られた成果

今回は農園芸関連高等学校ならびに高等学校を中心とした花と緑の体験型実習および説明・作業を中心として実施したが、これまで以上に職業としての園芸を意識づけることに成功したように思われる。少なからず小学期における感性の練磨ならびに園芸の作業を通じた仕事としての認識については成し遂げられた。また、中学生についても、花と緑の体験実習を行うことにより、これまでに園芸に対して興味のなかった生徒についても、職業選択の幅を広げる契機としても有効であろうことが証明された。

③今後の活用

職業体験を実施することにより、小中学生・高校生に園芸に興味を抱かせ、将来の職業の方向性として幅を広げられたことから考察すると、今後も継続的な実施が必要であると考えられる。今回のデータを基にすべての年齢層に受け入れられる可能性のある、園芸職業体験に重点を置き、これからも積極的に取り組むこととしたい。

④次年度以降における課題・展開

次年度以降も積極的に取り組むことは明確ではあるが、短期による成果で持続性に疑問が残ることが唯一懸念される。但し、花と緑の持つ魅力についてはいつの時代にも普遍のものであり、園芸に対する興味の情報発信元としての確立が急務であると考えられる。

3. 事業の実施に関する項目

①職業体験講座の実施

第1回 平成19年 9月27日(木) 柏原高等学校 受講者数 28名(男子28女子0)

園芸装飾、植栽に関わる園芸職業体験と園芸に関わる職業説明を実施。

園芸に対する興味の有無については、興味がなかった、あまりなかったが半数を占める。園芸の仕事に対する理解は82%の学生から理解を得た。また、園芸に関わる興味については80%以上の生徒が興味を持ったと回答し、体験前と比較し飛躍的に好意的な回答がみられた。

第2回 平成19年10月17日(水) 山田小学校 受講者数 63名(男子32女子31)

園芸装飾体験実習と植栽の作業と花と緑の楽しみ方について説明。

花や緑を好きと回答した児童は80%おり、実際に育てた経験のある児童は50%にもものぼり、花や緑について増えて欲しい、もっと知りたいと考えている児童についても98%以上にのぼるという結果になった。

児童期については全体的に園芸の興味が高いことが再認識された。

第3回 平成19年10月17日(水) 新発田農業高等学校 受講者数 6名(男子0 女子6)

造園竹垣作り体験実習と園芸装飾実習と園芸の職業説明を実施。

農業高校であることから、花や緑に対する仕事に興味を持っていると100%の生徒が回答しているが、園芸自体に興味をもっていたかの質問に対しては、興味があったと回答した生徒は33%にとどまっており、仕事に対しての使命感・義務感が感じられる。また、実習後には、園芸自体の興味についても100%の生徒が興味対象との回答に至った。

第4回 平成19年11月15日(木) 益田翔陽高等学校 受講者数 40名(男子10女子30)

園芸装飾体験実習と造園剪定実習とフラワーアレンジ体験実習と園芸のに関わる仕事・業界について説明。

農業高校であることから、花や緑に対する仕事に興味を持っていると73%の生徒が回答しており、園芸自体に興味をもっていたかの質問に対しても、興味があったと回答した生徒は75%おり、将来の園芸の仕事に対しての基本的に前向きな姿勢が感じられる。実習後には、園芸自体の興味についても90%の生徒が興味対象との回答に至った。

第5回 平成19年12月 3日(月) 佐野工科高等学校 受講者数 15名(男子8女子7)

フラワーアレンジ体験実習・園芸装飾実習と園芸に関わる仕事・業界について説明。

園芸に対する興味の有無については、興味がなかった、あまりなかったが半数を占める。園芸の仕事に対する理解についても半数の学生から理解を得た。また園芸に関わる興味については70%の生徒が興味を持ったと回答し、体験前と比較し園芸に対して好意的な回答がみられた。

第6回 平成19年12月 4日(火) 平城東中学校 受講者数 15名(男子11女子4)

造園竹垣作り体験実習と植栽作業、園芸に関わる仕事についての説明を実施。

もともと花や緑に興味ありと回答した生徒が87%おり、体験実習実施後には全員が花や緑の仕事をしてみたいとまで考えている。園芸についての興味がつきないといった非常に好意的な回答に至った。

第7回 平成20年 1月16日(水) 農芸高等学校 受講者数 36名(男子20女子16)

造園実習・園芸装飾実習・フラワーデザイン実習・園芸福祉に関わる体験実習と園芸の職業について説明。

農業高校であることから、花や緑に対する仕事に興味を持っていると75%の生徒が回答しており、園芸自体に興味をもっていたかの質問に対しても、興味があったと回答した生徒は75%おり、将来の園芸の仕事に対しての基本的に前向きな姿勢が感じられる。実習後には、園芸自体の興味についても80%の生徒が興味対象との回答に至った。

第8回 平成20年 1月25日(金) 園芸高等学校 受講者数 10名(男子2女子8)

フラワーアレンジ体験実習・造園体験実習・園芸装飾体験実習と園芸に関わる職業説明を実施。

農業高校であることから、花や緑に対する仕事に興味を持っていると80%の生徒が回答しており、園芸自体に興味をもっていたかの質問に対しても、興味があったと回答した生徒は70%おり、将来の園芸の仕事に対しての基本的に前向きな姿勢が感じられる。仕事に対しての興味についても90%の生徒が興味対象との回答に至った。

②その他

誰にでも楽しめる園芸本来の特色を活かし、また、説明だけでは伝わらない園芸の魅力を体験型実習とすることにより、また体力的に負担のかかる実習作業については極力控えることにより、園芸が持つ誰にでも、どこでも楽しむことのできる魅力について、園芸の職業の素晴らしさや大切さを、仕事とをするという観点から仕事の厳しさを効果的に交えながら実行できた。